

# おきなくら EELs 安全管理マニュアル

おきなくら EELs

おきなくら Experience Explorer Leaders

第3版

2017年10月

## はじめに ―自然体験活動における安全管理と対策の考え方

豊かな自然の中で自然とふれあい親しむ活動をおこなうことで、私たちは癒しやすさ、たくさんの感動を得るとともに、自然を理解し保護しようという気持ちを育んだり、自然や地域文化との共生を目指す生き方・暮らし方を知ることができます。特に、現代社会での不規則な生活習慣や生活技術の低下、異年齢集団体験の不足など多くの問題の中で、青少年の健全な成長のため、子どもたちに自然体験の機会を提供することも強く求められています。

おきなくらいールズは、石巻市・南三陸町・登米市を中心に、三陸復興国立公園の恵まれた自然環境の中で自然体験活動を提供し、こうした社会課題の解決に取り組むとともに、健やかでより良い社会の形成に寄与していくことを目指します。

常に変化し全てを予見することが難しい自然の中で、体験を通じて何かを得ようとする活動において、危険や事故はつきものです。とはいえ危険を消極的なものと捉えるのではなく、事故が起きないための万全の対策を講じ、また有事の際の対策を練ることで、参加者の好奇心や冒険心がくすぐられ、忘れられない経験の場を提供していきましょう。

おきなくらいールズのメンバー全員が、自然体験の意義と、その裏に潜む危険を排除するための対策について理解し、安全かつ質の高い活動を提供していくため、安全管理マニュアルを作成します。メンバーそれぞれが日々安全に関する意識とそのための対策を怠らず、またくりかえし知識と経験を積み重ねるとともに、本マニュアルを活動の際の絶対原則としてください。

2016年7月

## 目次

<b>第1章 一事故を未然に防ぐための安全対策</b>	…4
1. 日常的・定期的を実施する安全対策	
2. 予約受注段階における安全対策	
3. 事前準備段階における安全対策	
4. 実施直前/当日・実施中の安全対策	
<b>第2章 一プログラム別・会場別の安全対策</b>	…8
1. スノーケル	
1-1 神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」	
1-2 合羽沢	
1-3 サンオーレそではま海水浴場	
2. カヤック	
2-1 神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」	
2-2 坂本海岸	
2-3 サンオーレそではま海水浴場	
2-4 皿貝川	
3. SUP	
3-1 神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」	
3-2 坂本海岸	
3-3 サンオーレそではま海水浴場	
3-4 皿貝川	
4. キャンプ	
4-1 神割崎キャンプ場	
<b>第3章 一事故が発生した場合の対応</b>	…31
1. 対応のフロー	
2. 緊急連絡網	
3. 救命措置・救急法	
4. 事故の記録	
5. 保険	
6. 関係者への対応	
7. 災害時対応	

## 所定様式

---

### 1. 参加者情報

1-1. 参加申込書

1-2. 同意書

1-3. 健康調査書

### 2. 実施計画策定

2-1. スタッフシート

2-2. 事故対策フロー

2-3. 緊急時連絡先

2-4. 緊急時連絡体制

### 3. 記録

3-1. ヒヤリハットシート

3-2. 事故記録用紙

## 第1章 ー事故を未然に防ぐための安全対策

### 1. 日常的・定期的実施する安全対策

事故を未然に防ぐためには、都度のプログラム実施を十分注意しておこなうことはもちろん、日常的・定期的に安全に関する意識を持って対策を講じることが必須である。

#### (1) スタッフトレーニング

- ・参加者および自身の安全を確保するために、指導者の能力向上に努める。
- ・基礎運動能力（体力・筋力）や基礎知識の向上を、各自で日頃から努める。
- ・指導するプログラムに関する知識・技術のほか、危険を予測して安全に対処するための能力、天気や地図・地形を理解する能力、救命訓練や避難訓練など事故が起こってしまった際の対応能力についても、経験を積むよう心掛けること。

#### (2) 活動場所の下見・踏査

- ・屋外、特に自然の中での活動においては、活動場所が常に同じ状態にあるとは限らない。定期的に現場を訪れ、普段通りのプログラムが実施できるか、危険箇所は増えていないかなど確認する。
- ・下見はプログラム実施直前のみでなく、頻度を定めておこなうようにする。

#### (3) 器材の点検

- ・プログラムで使用する器材や道具・装備品などの破損や不備について、保守点検を定期的におこなうこと。
- ・救急セットについても同様におこなうこと。経年劣化や使用期限などに注意する。
- ・不具合のあったものはわかるよう印をつけ区別し、必要に応じて修理や補填をおこなうこと。

#### (4) 事故寸前回避事例（ヒヤリ/ハット）の蓄積と共有

- ・事故が起きそうになりヒヤリ/ハットしたことは、プログラム実施後に毎回必ず記録すること。専用のシート（所定様式）を用いる。
- ・現場にいなかった人が見ても状況が把握できるよう、なるべく詳細に記入する。
- ・事例は蓄積するとともに誰もが閲覧できるよう共有し、同様の事例が起きないように努める。

#### (5) 保険加入

- ・組織として必ず傷害保険・賠償保険の両方に加入すること。
- ・保険の内容や金額を定期的に見直し、必要に応じて契約内容の変更をおこなう。
- ・普段と異なるプログラムや新しいプログラムを実施する際は、必ず保険会社へ連絡し、適応範囲内であることを確認すること。
- ・事故発生時には必ず保険会社へ連絡を入れる（第3章参照）。

## (6) 活動メニューの見直し

- ・ (1)～(5)を日常的・定期的にくりかえしおこない、これを踏まえて定期的な活動メニューの見直しをおこなうこと。
- ・ 安全に実施することを最重要視し、内容や金額・受け入れ人数などを見直す。

## (7) 安全管理マニュアルの見直し

- ・ 本マニュアルの内容についても、同様に見直しをおこなうこと。

## (8) 情報収集と共有

- ・ そのほか、活動フィールドについての情報や、他地域でのプログラム実施や事故事例についての情報など、事業に関する情報は日々把握し共有できるよう意識する。

## 2. 予約受注段階における安全対策

仮予約を受けたら予約確定の前に、安全にプログラムが実施できるかどうか、以下の点を確認する。参加者のレベルとプログラムの内容が適当であるか、弱者に応じた実施が可能かどうか、などについて配慮すること。

### (1) 参加者情報の把握 — 活動メニューに適した参加者であるか

#### ① 参加申込書・同意書・健康調査書

- ・ 参加希望者からは「参加申込書」「同意書」「健康調査書」の3点（所定様式）を必ず受けとり、参加者の情報を得られるようにする（プログラムによって、受け取る書類が異なることもある）。特に②～④の内容を総合的に見て判断する。

#### ② 人数

- ・ 参加者の人数が、スタッフの人員・能力や、施設・環境のキャパシティ的に、対応可能かどうか。

#### ③ 特徴（体力/能力/年齢 など）

- ・ 参加者にはいろいろな特徴があり経験や知識もさまざまであることに留意する。

#### ④ 持病・健康状態

- ・ プログラム実施に耐えうる健康状態であるか、既往症や服薬などについても留意する。

### (2) 参加者への説明

以下の点について参加者に事前に説明をおこない、参加者にも安全のための意識をもってもらうようにすること。参加者が未成年である場合には、保護者への説明も同様におこなうこと。

#### ① 活動の目的

#### ② 内容とタイムスケジュール

#### ③ 集合場所と集合時間

#### ④ 持ち物と服装

#### ⑤ ルールとマナー

⑥安全について（野外活動のリスク/安全対策/災害時対応/保険の内容/自己責任意識 など）

⑦キャンセルポリシー

### (3) スタッフの確保

予約確定前に、プログラム実施に必要なスタッフを確保できるかどうか確認すること。人数のみならず、指導に必要な能力なども考慮し、指導体制や役割分担についてもおおまかに決定する。

①人数

②能力：指導に必要な知識・技術・経験、資格の有無、安全管理能力、意識やモラル。

③体制・役割分担：現場責任者以下、実施に係る体制をプログラムに応じて整える（第2・3章参考）。

## 3. 事前準備段階における安全対策

予約確定後は実施当日に向け、安全で質の高いプログラムを提供するため、入念に計画を練る。また、スタッフ間での共有を確実におこない、計画通りに実施できるよう準備をおこなうこと。

### (1) 実施計画の策定 — スタッフシートの作成

安全で質の高いプログラム実施とその内容などを確実にスタッフ間で共有するため、事前にスタッフシートを作成する。以下の点を確定するため下見や準備・打ち合わせを進め、漏れなく記載すること。（所定様式：スタッフシートひな形／緊急時連絡体制／緊急時連絡先／事故対策フロー）

①日時

②活動の内容とその目的

③活動場所

④参加人数

⑤スタッフ体制・役割分担

⑥タイムスケジュール

⑦準備物

⑧リスクの洗い出し

⑨事故発生時フロー

⑩緊急連絡網・休日当番医

### (2) スタッフでの共有

作成したスタッフシートをもとに、スタッフ間での情報共有をおこなう。

①ミーティング

・どんなに万全に準備をしようと、携わる全てのスタッフがその情報を得ていないと安全は保たれないため、確実に全てのスタッフと共有をおこなうこと。

②シミュレーション

・当日の実施をくりかえしシミュレーションし、リスクを洗い出し対策を練ること。

#### 4. 実施直前/当日・実施中の安全対策

フィールドの様相、特に気象状況や危険箇所は日々変化するものであるため、プログラム実施の直前や当日にも、下見や確認を必ずおこなうこと。また、実施中にもその変化に細心の注意を払い、必要な場合には中止や中断の対応をとること。

##### (1) フィールド

###### ① 気象状況（天候/波/風/気温/水温）

- ・直前や前日のみでなく、実施中も気象状況の変化には注意を払うこと。プログラムごとの催行可否の判断基準については第2章参照。

###### ② 危険箇所の再確認

- ・下見の段階から当日までに新たな危険箇所ができていることもあるので、実施直前や当日も確認をおこなうこと。排除できる場合は排除し、できない場合は内容の変更や中止の判断をおこなう。

###### ③ 器材や装備の確認

- ・プログラムで使用する器材や道具、装備品などの不具合について、定常的な点検に加え、実施直前や当日にも確認をおこなうこと。
- ・救急セットについても同様におこなうこと。経年劣化や使用期限などに注意する。

##### (2) 参加者

###### ① 人数

- ・参加者の人数は、申込時から変わることもある。当日の参加者数を確実に把握し、プログラム中は頻繁に人数確認をおこなうこと。

###### ② 健康状態

- ・健康調査書に加え、視診・問診をおこない、参加者の健康状態がプログラム実施に耐えうるものであるか確認すること。プログラム実施中も参加者の体調の変化に常に気を配る。

###### ③ 弱者への配慮

- ・子どもや女性・高齢者、体力面で劣る者などがいた場合、対応に気を配ること。

###### ④ 心の安全

- ・さまざまな関わり合いや活動の中で、心の痛手やダメージを受ける参加者がいる。「無理強いをせず、本人の意思を尊重し、周囲との調和を図る」ことを基本に、互いの気持ちを伝えあえる雰囲気づくりを心がけること。

##### (3) スタッフ

###### ① 役割分担とコミュニケーション

- ・組織として十分に機能し、良い雰囲気づくりをおこなうため、事前の準備および当日のコミュニケーションについて配慮する。
- ・確実な役割分担とその共有をおこない、各自がその責務を全うすること。
- ・円滑な連絡や逐一の報告・相談をおこなうこと。
- ・緊急時や広範囲での活動の際は、ホイッスルを常備する。

【合図】

□ - — - —	ピピーピピー	: SOS (緊急時や危険を知らせるとき)
□ -	ピ	: 注目!
□ - - - -	ピピピピ	: あつまれ (集合するとき)
□ - - —	ピピピー	: スタッフ注目 (注目や手を貸してほしいとき)
□ - - — - -	ピピピーピピ	: 配給あり (備品や食材を配布するとき)
□ —————	ピ————	: 起床・就寝

②スタッフ自身の安全と健康管理

- ・参加者の安全を確保するとともに、スタッフは自身の安全や健康管理にも注意を払うこと。
- ・自身の能力や体力の限界・当日のコンディションを見定め、無理をしないこと。

③万が一の想定

- ・事故やトラブルは予期せず起こるものである。緊急時の想定をくりかえしおこない、冷静に対処できるようにしておくこと。

## 第2章 プログラム別・会場別の安全対策

### 1. スノーケリング

#### <1> 神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」

##### (1) 中止判断の基準目安

- ① 気温が 20℃未満、もしくは水温 20℃未満の場合。
- ② 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ③ 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ④ 東風か南風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ⑤ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑥ その他現場責任者が相当と認める場合

##### (2) 活動

###### ① 気象条件

- ・北風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。

###### ② 地理的条件

- ・海に向かって右側の浜は波がおおきくなる。
- ・沖合いの松島と入り江の間の水路は潮の流れがある。
- ・外海に近いので、コンデションが悪くなることが多い。
- ・沖合いに「松島」という島がある。
- ・入り江の真ん中に根があり、干潮時には岩が露出する。
- ・底質は砂と岩礁と転石が混在する。
- ・シャワーとトイレは神割崎キャンプ場の施設が使える。

###### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

###### 【エイ・オコゼほか】

近づかない。トゲを取り除き、40～45℃のお湯で1時間ほど暖める。

###### 【ウニ・カキ・フジツボ】

手をついたり踏まないように注意する。刺傷した場合は棘などを取り除き消毒。

###### ④ 参加者の条件

- ・小学生高学年以上。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。

- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ウェットスーツを必ず着用し、基本的にはライフジャケットを併用する。原則潜水はさせない。
- ・ブーツを必ず着用する。
- ・水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・スノーケリング器材は海中や休憩中の紛失、特に波にさらわれないように注意する。
- ・スノーケリング器材はサイズの適したものを使用する。
- ・スノーケリング器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、とりあえずキャンプ場の高いところ(灯台など)にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

#### 【最寄りのAED設置箇所】

神割崎キャンプ場レストハウス (0226-46-9221) ※ 夜間使用不可 (開館日時を事前確認)

【管轄警察署】 南三陸警察署 (0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院 (0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書(誓約書)および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディシステムを徹底する。

## <2> 合羽沢

### (1) 中止判断の基準目安

- ① 気温が 20℃未満、もしくは水温 20℃未満の場合。
- ② 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ③ 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ④ 南風以外の風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ⑤ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑥ その他現場責任者が相当と認める場合

### (2) 活動

#### ① 気象条件

- ・ 南風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・ 直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。

#### ② 地理的条件

- ・ 海へはスロープになっている。傾斜部分に海藻が生えているので滑りやすく、歩行での移動に注意が必要。
- ・ シャワーやトイレがない。緊急時は海のビクターセンターへ。
- ・ 底質は砂と岩礁が中心。

#### ③ 危険生物

##### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

##### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

##### 【エイ・オコゼほか】

近づかない。トゲを取り除き、40～45℃のお湯で1時間ほど暖める。

##### 【ウニ・カキ・フジツボ】

手をついたり踏まないように注意する。刺傷した場合は棘などを取り除き消毒。

#### ④ 参加者の条件

- ・ 小学生高学年以上。
- ・ スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・ 当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・ てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ ウェットスーツを必ず着用し、基本的にはライフジャケットを併用する。原則潜水はさせない。
- ・ ブーツを必ず着用する。
- ・ 水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤ 道具・器材などの条件

- ・ 不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。

- ・スノーケリング器材は海中や休憩中の紛失、特に波にさらわれないように注意する。
- ・スノーケリング器材はサイズの適したものを使用する。
- ・スノーケリング器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、国道398号線へあがる。自然の家まで移動できるとなお良い。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

#### 【最寄りのAED設置箇所】

南三陸 海のビジターセンター (0226-25-7622) ※持ち出し可能

宮城県志津川自然の家 (0226-46-9044)

【管轄警察署】 南三陸警察署 (0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院 (0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディシステムを徹底する。

### ＜3＞サンオーレそではま海水浴場

#### (1) 中止判断の基準目安

- ①気温が20℃未満、もしくは水温20℃未満の場合。
- ②波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ③波高2m以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ④東風か南風で風速6m以上の場合、もしくは風速8m以上の場合
- ⑤大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑥その他現場責任者が相当と認める場合

#### (2) 活動

##### ① 気象条件

- ・北風もしくは西風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。

##### ② 地理的条件

- ・沖合に「荒島」という島がある。
- ・荒島に渡る堤防の西側（海に向かって右側）は、漁業施設などもあるので使用しない。
- ・海水浴場外は漁船航路もあるので、なるべくあまり沖に出ず活動する。
- ・海水浴場内数カ所に根があり、干潮時には岩が露出する？
- ・底質は砂と岩礁が混在する。
- ・シャワーとトイレは海水浴場の施設が使える。
- ・海水浴場の利用ルールを順守する。

##### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

###### 【エイ・オコゼほか】

近づかない。トゲを取り除き、40～45℃のお湯で1時間ほど暖める。

###### 【ウニ・カキ・フジツボ】

手をついたり踏まないように注意する。刺傷した場合は棘などを取り除き消毒。

##### ④ 参加者の条件

- ・小学生高学年以上。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ウェットスーツを必ず着用し、基本的にはライフジャケットを併用する。原則潜水はさせない。
- ・ブーツを必ず着用する。
- ・水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・スノーケリング器材は海中や休憩中の紛失、特に波にさらわれないように注意する。
- ・スノーケリング器材はサイズの適したものを使用する。
- ・スノーケリング器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、はまゆり大橋を利用し、沼田方面にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りの AED 設置箇所】

- ・サンオーレそではま管理棟（090-5831-9891）開設時期のみ・AED と担架アリ
  - ・南三陸病院（0226-46-3646）
- ・南三陸町役場（0226-46-2600）

【管轄警察署】 南三陸警察署（0226-46-3131）

【最寄りの医療機関】 南三陸病院（0226-46-3646）

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院（0225-21-7220）

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協志津川支所および海水浴場管理者（開設期間中は南三陸町観光協会・期間外は町役場商工観光課）へ実施の告知をしておく。
- ・管理者へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・海水浴場開設期間中にプログラムを実施する場合は、一般の海水浴場利用者との衝突に注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディシステムを徹底する。

## ★ チェックポイント | スノーケルプログラム

### 【プログラム開始前】

チェック項目	✓
申込書情報で健康状態に問題はないか確認する。	
当日の健康チェック表で健康状態を確認する。	
会話をする中で、参加者の人となり(自己中心的/慌て者/怖がり など)を見て、注意する人や部分を探る。	
自分の身の回りのものをきっちり片付けさせる。	
シャワールームにすぐに持っていけるようタオルなど区分けさせる。	
器材のフィッティングは丁寧に。 特にマスクストラップ調節・ライフジャケットの締め付けは入念におこなう。	

### 【プログラム中】

- ・参加者人数の確認を頻繁におこなう
- ・グループ体系をしっかりと維持する
- ・バディがはなれていないか
- ・水を怖がっていないか
- ・フィンがぬげていないか
- ・マスクストラップがゆるんでいないか、マスクがずれていないか
- ・マスクに水ははいていないか、曇ってはいないか
- ・マスクストラップはねじれていないか
- ・スノーケルはしっかりくわえているか
- ・疲労していないか
- ・深くゆっくりした、落ち着いたスノーケル呼吸をしているか
- ・ヒートロスをおこしてふるえていないか、チアノーゼをおこしていないか
- ・顔に赤みをおびていないか(熱中症の疑いはないか)

### 【プログラム終了後】

チェック項目	✓
マスク・フィン・スノーケルなどの返却器材は全部そろっているか	
気分がすぐれなくないか	
器材をしっかり洗わせ、干させる	
シャワールームでふざけていないか、てきぱきと浴びているか	
使ったあとがきれいか	
忘れ物はないか	
ヒヤリハットシートの記入	

## 2. カヤック

### <1>神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」

#### (1) 中止判断の基準目安

- ① 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ② 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③ 南風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤ その他現場責任者が相当と認める場合

#### (2) 活動

##### ① 気象条件

- ・ 北風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・ 直射日光を遮る構造物が無い場合、タープなどを用意する。

##### ② 地理的条件

- ・ 海に向かって右側の浜は波がおおきくなる。
- ・ 沖合いの松島と入り江の間の水路は潮の流れがある。
- ・ 外海に近い場合、コンディションが悪くなることが多い。
- ・ 沖合いに「松島」という島がある。
- ・ 入り江の真ん中に根があり、干潮時には岩が露出する。
- ・ 底質は砂と岩礁と転石が混在する。
- ・ シャワーとトイレは神割崎キャンプ場の施設が使える。

##### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

##### ④ 参加者の条件

- ・ 小学生高学年以上。
- ・ スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1 : 参加者 4~5。
- ・ 当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・ てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。
- ・ ブーツを必ず着用する。
- ・ 転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・パドルをはじめとするカヤック器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないように注意する。
- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、とりあえずキャンプ場の高いところ(灯台など)にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

#### 【最寄りのAED設置箇所】

神割崎キャンプ場レストハウス (0226-46-9221)

※ 夜間使用不可 (開館日時を事前確認)

【管轄警察署】 南三陸警察署 (0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院 (0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書(誓約書)および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

## <2>坂本海岸

### (1)中止判断の基準目安

- ①波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ②波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③南向き以外の風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤その他現場責任者が相当と認める場合

### (2)活動

#### ①気象条件

- ・南風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。

#### ②地理的条件

- ・海へはスロープになっている。傾斜部分に海藻が生えているので滑りやすく、歩行での移動に注意が必要。
- ・沖合は航路になっているので漁船などの通過に注意し、なるべくまとまってまっすぐに横断する。
- ・シャワーとトイレは海のビジターセンターのものを利用する。
- ・底質は砂と岩礁が中心。

#### ③危険生物

##### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

##### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

#### ④参加者の条件

- ・小学生高学年以上。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 4～5。
- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。
- ・ブーツを必ず着用する。
- ・転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・パドルをはじめとするカヤック器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないように注意する。
- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。

- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、国道398号線へあがる。自然の家まで移動できるとなお良い。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りのAED設置箇所】

南三陸 海のビジターセンター (0226-25-7622) ※持ち出し可能

宮城県志津川自然の家 (0226-46-9044)

【管轄警察署】 南三陸警察署 (0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院 (0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

### <3>サンオーレそではま海水浴場

#### (1) 中止判断の基準目安

- ① 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ② 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③ 南風もしくは東風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤ その他現場責任者が相当と認める場合

#### (2) 活動

##### ① 気象条件

- ・ 北風もしくは西風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。

##### ② 地理的条件

- ・ 沖合に「荒島」という島がある。
- ・ 荒島に渡る堤防の西側（海に向かって右側）は、漁業施設などもあるので使用しない。
- ・ 海水浴場外は漁船航路もあるので、なるべくあまり沖に出ず活動する。
- ・ 海水浴場内数カ所に根があり、干潮時には岩が露出する？
- ・ 底質は砂と岩礁が混在する。
- ・ シャワーとトイレは海水浴場の施設が使える。
- ・ 海水浴場の利用ルールを順守する。

##### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

##### ④ 参加者の条件

- ・ 小学生高学年以上。
- ・ スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 4～5。
- ・ 当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・ てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。
- ・ ブーツを必ず着用する。
- ・ 転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

##### ⑤ 道具・器材などの条件

- ・ 不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・ パドルをはじめとするカヤック器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないように注意する。
- ・ 着用する器材はサイズの適したものを使用する。

- ・ 器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・ 必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・ レスキュー用のチューブやホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・ 参加者から常に目を離さないようにする。
- ・ 参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4～5。
- ・ スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・ 陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・ 海中・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・ 大地震発生時の避難場所は、はまゆり大橋を利用し、沼田方面にあがる。
- ・ 大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りのAED設置箇所】

- ・ サンオーレ袖浜 管理棟（090-5831-9891）開設時期のみ/AED・担架アリ
- ・ 南三陸病院（0226-46-3646）
- ・ 南三陸町役場（0226-46-2600）

【管轄警察署】 南三陸警察署（0226-46-3131）

【最寄りの医療機関】 南三陸病院（0226-46-3646）

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院（0225-21-7220）

#### ⑧法令・ルール

- ・ 参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・ 事前に漁協志津川支所および海水浴場管理者（開設期間内は南三陸町観光協会・期間外は町役場商工観光課）へ実施の告知をしておく。
- ・ 漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・ 海水浴場開設期間中にプログラムを実施する場合は、一般の海水浴場利用者との衝突に注意する。
- ・ 生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・ 釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

## <4>皿貝川

### (1) 中止判断の基準目安

- ①暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ②強風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ③大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ④その他現場責任者が相当と認める場合

### (2) 活動

#### ①気象条件

- ・西風の場合は下流に流され、東風の場合は上流に流される。いずれであっても最悪は岸に寄れる。

#### ②地理的条件

- ・ヨシ原に囲まれている。
- ・スタートあたりにヨシに囲まれた池があり、そこでトレーニングができる。
- ・橋を越えて上流に向かうと、どんどん川幅が狭くなり浅くなる。
- ・底質は土と岩が混在する。
- ・トイレ施設がないので、復興交流館・北上館もしくはウィーアーワン事務所のトイレを借りる。
- ・シャワー施設はない。

#### ③危険生物

- ・特になし

#### ④参加者の条件

- ・小学生高学年以上。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1 : 参加者 4~5。
- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠などは原則参加できない。
- ・ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。
- ・転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を確認し、予備を含め多めに準備する。
- ・パドルをはじめとするカヤック器材は、川の中や休憩中の紛失に注意する。
- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用のチューブやホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、参加者数を調整する。目安はスタッフ 1 : 参加者 4~5。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・スタッフはホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、にっこりサンパークにあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

【最寄りの AED 設置箇所】 居酒屋ふーちゃん横 現場事務所

【管轄警察署】 河北警察署 (0225-62-3411)

【最寄りの医療機関】【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

⑨その他

## ★ チェックポイント | カヤックプログラム

### 【プログラム開始前】

チェック項目	✓
申込書情報で健康状態に問題はないか確認する。	
当日の健康チェック表で健康状態を確認する。	
会話をする中で、参加者の人となり(自己中心的/慌て者/怖がり など)を見て、注意する人や部分を探る。	
自分の身の回りのものをきっちり片付けさせる。	
シャワールームにすぐに持っていけるようタオルなど分けさせる。	
器材のフィッティングは丁寧に。特にライフジャケットの締め付けは入念におこなう。	
活動エリアや危険箇所の確認をおこなう。	

### 【プログラム中】

- ・参加者人数の確認を頻繁におこなう
- ・グループ体系をしっかりと維持する
- ・水を怖がっていないか
- ・パドルの長さや持ち方は正しいか
- ・疲労していないか
- ・ヒートロスをおこしてふるえていないか、チアノーゼをおこしていないか
- ・顔に赤みをおびていないか（熱中症の疑いはないか）

### 【プログラム終了後】

チェック項目	✓
カヤック・パドル・ライフジャケットなどの返却器材は全部そろっているか	
気分がすぐれなくないか	
器材をしっかり洗わせ、干させる	
シャワールームでふざけていないか、てきぱきと浴びているか	
使ったあとがきれいか	
忘れ物はないか	
ヒヤリハットシートの記入	

### 3. SUP

#### <1>神割崎キャンプ場「ウェーブの入り江」

##### (1)中止判断の基準目安

- ①波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ②波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③南風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤その他現場責任者が相当と認める場合

##### (2)活動

###### ①気象条件

- ・北風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。

###### ②地理的条件

- ・海に向かって右側の浜は波がおおきくなる。
- ・沖合いの松島と入り江の間の水路は潮の流れがある。
- ・外海に近いので、コンディションが悪くなることが多い。
- ・沖合いに「松島」という島がある。
- ・入り江の真ん中に根があり、干潮時には岩が露出する。
- ・底質は砂と岩礁と転石が混在する。
- ・シャワーとトイレは神割崎キャンプ場の施設が使える。

###### ③危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

###### ④参加者の条件

- ・中学生以上。ただしスタッフや保護者（責任者判断）と同乗の場合は、小学生以上も参加可能。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 3～4。
- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠、飲酒者などは原則参加できない。
- ・ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。日焼け、日よけ対策もおこなう。
- ・ブーツや踵のあるサンダルなどを必ず着用する。
- ・転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を細部まで確認・点検し、予備を含め備品は多めに準備する。  
(特にリーシュプラグや紐、リーシュコード、フィンに問題がないか必ず点検する。)
- ・パドルをはじめとする SUP 器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないよう注意する。
- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用の予備ボードやチューブ、ホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、チームやバディを組み、出艇数を調整する。  
目安はスタッフ1：参加者3~4。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・イベントなどで参加者数が多く、SUP を順番におこなうプログラムの場合、陸上と水際にそれぞれスタッフをおく。陸上スタッフは浜で待機している参加者を含め、全体の状況を把握する。水際スタッフは参加者の SUP 乗降サポートや、緊急時における救助、水上スタッフと陸上スタッフの連絡中継などを担う。
- ・海上・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、とりあえずキャンプ場の高いところ(灯台など)にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りの AED 設置箇所】

神割崎キャンプ場レストハウス (0226-46-9221) ※ 夜間使用不可 (開館日時を事前確認)

【管轄警察署】 南三陸警察署 (0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院 (0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院 (0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書(誓約書)および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディもしくはチームを組んでおこなう。

## <2>坂本海岸

### (1) 中止判断の基準目安

- ① 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ② 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③ 南向き以外の風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤ その他現場責任者が相当と認める場合

### (2) 活動

#### ① 気象条件

- ・ 南風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。
- ・ 直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。

#### ② 地理的条件

- ・ 海へはスロープになっている。傾斜部分に海藻が生えているので滑りやすく、歩行での移動に注意が必要。
- ・ 沖合は航路になっているので漁船などの通過に注意し、なるべくまとまってまっすぐに横断する。
- ・ シャワーとトイレは海のビジターセンターのものを利用する。
- ・ 底質は砂と岩礁が中心。

#### ③ 危険生物

##### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

##### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

#### ④ 参加者の条件

- ・ 中学生以上。ただしスタッフや保護者（責任者判断）と同乗の場合は、小学生以上も参加可能。
- ・ スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 3～4。
- ・ 当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・ てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠、飲酒者などは原則参加できない。
- ・ ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。日焼け、日よけ対策もおこなう。
- ・ ブーツや踵のあるサンダルなどを必ず着用する。
- ・ 転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤ 道具・器材などの条件

- ・ 不具合や整備不足を細部まで確認・点検し、予備を含め備品は多めに準備する。  
(特にリーシュプラグや紐、リーシュコード、フィンに問題がないか必ず点検する。)
- ・ パドルをはじめとする SUP 器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないよう注意する。
- ・ 着用する器材はサイズの適したものを使用する。

- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用の予備ボードやチューブ、ホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、チームやバディを組み、出艇数を調整する。  
目安はスタッフ1：参加者3～4。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・イベントなどで参加者数が多く、SUPを順番におこなうプログラムの場合、陸上と水際にそれぞれスタッフをおく。陸上スタッフは浜で待機している参加者を含め、全体の状況を把握する。水際スタッフは参加者のSUP乗降サポートや、緊急時における救助、水上スタッフと陸上スタッフの連絡中継などを担う。
- ・海上・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、国道398号線へあがる。自然の家まで移動できるとなお良い。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りのAED設置箇所】

- ・南三陸 海のビジターセンター（0226-25-7622） ※持ち出し可能
- ・宮城県志津川自然の家（0226-46-9044）

【管轄警察署】 南三陸警察署（0226-46-3131）

【最寄りの医療機関】 南三陸病院（0226-46-3646）

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院（0225-21-7220）

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディもしくはチームを組んでおこなう。

### <3>サンオーレ袖浜 海水浴場

#### (1) 中止判断の基準目安

- ① 波浪・高潮・暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ② 波高 2m 以上の場合、もしくはうねりが発生する場合
- ③ 南風もしくは東風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ④ 大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ⑤ その他現場責任者が相当と認める場合

#### (2) 活動

##### ① 気象条件

- ・ 北風もしくは西風であれば流されても浜に着く。上潮の時間帯が望ましい。

##### ② 地理的条件

- ・ 沖合に「荒島」という島がある。
- ・ 荒島に渡る堤防の西側（海に向かって右側）は、漁業施設などもあるので使用しない。
- ・ 海水浴場外は漁船航路もあるので、なるべくあまり沖に出ず活動する。
- ・ 海水浴場内数カ所に根があり、干潮時には岩が露出する？
- ・ 底質は砂と岩礁が混在する。
- ・ シャワーとトイレは海水浴場の施設が使える。
- ・ 海水浴場の利用ルールを順守する。

##### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

##### ④ 参加者の条件

- ・ 中学生以上。ただしスタッフや保護者（責任者判断）と同乗の場合は、小学生以上も参加可能。
- ・ スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 3～4。
- ・ 当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・ てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠、飲酒者などは原則参加できない。
- ・ ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。日焼け、日よけ対策もおこなう。
- ・ ブーツや踵のあるサンダルなどを必ず着用する。
- ・ 転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

##### ⑤ 道具・器材などの条件

- ・ 不具合や整備不足を細部まで確認・点検し、予備を含め備品は多めに準備する。  
(特にリーシュプラグや紐、リーシュコード、フィンに問題がないか必ず点検する。)
- ・ パドルをはじめとする SUP 器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないよう注意する。

- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用の予備ボードやチューブ、ホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、チームやバディを組み、出艇数を調整する。

目安はスタッフ1：参加者3～4。

- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・イベントなどで参加者数が多く、SUPを順番におこなうプログラムの場合、陸上と水際にそれぞれスタッフをおく。陸上スタッフは浜で待機している参加者を含め、全体の状況を把握する。水際スタッフは参加者のSUP乗降サポートや、緊急時における救助、水上スタッフと陸上スタッフの連絡中継などを担う。
- ・海上・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、はまゆり大橋を利用し、沼田方面にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りのAED設置箇所】

- ・サンオーレ袖浜 管理棟（090-5831-9891）開設時期のみ/AED・担架アリ
- ・南三陸病院（0226-46-3646）
- ・南三陸町役場（0226-46-2600）

【管轄警察署】 南三陸警察署（0226-46-3131）

【最寄りの医療機関】 南三陸病院（0226-46-3646）

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院（0225-21-7220）

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・事前に漁協志津川支所および海水浴場管理者（開設期間内は南三陸町観光協会・期間外は町役場商工観光課）へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・海水浴場開設期間中にプログラムを実施する場合は、一般の海水浴場利用者との衝突に注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

- ・バディもしくはチームを組んでおこなう。

## <4>皿貝川

### (1) 中止判断の基準目安

- ①暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ②強風で風速 6m 以上の場合、もしくは風速 8m 以上の場合
- ③大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ④その他現場責任者が相当と認める場合

### (2) 活動

#### ①気象条件

- ・西風の場合は下流に流され、東風の場合は上流に流される。いずれであっても最悪は岸に寄れる。

#### ②地理的条件

- ・ヨシ原に囲まれている。
- ・スタートあたりにヨシに囲まれた池があり、そこでトレーニングができる。
- ・橋を越えて上流に向かうと、どんどん川幅が狭くなり浅くなる。
- ・底質は土と岩が混在する。
- ・トイレ施設がないので、復興交流館・北上館もしくはウィーアワン事務所のトイレを借りる。
- ・シャワー施設はない。

#### ③危険生物

特になし

#### ④参加者の条件

- ・中学生以上。ただしスタッフや保護者（責任者判断）と同乗の場合は、小学生以上も参加可能。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者数やグループの人数を調整する。目安はスタッフ 1：参加者 3～4。
- ・当日の健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠、飲酒者などは原則参加できない。
- ・ライフジャケットを必ず着用し、気温などに応じてウェットスーツを併用する。日焼け、日よけ対策もおこなう。
- ・ブーツや踵のあるサンダルなどを必ず着用する。
- ・転落時水中でパニックに陥りやすいので注意する。水への恐怖心を考慮し、無理をさせない。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を細部まで確認・点検し、予備を含め備品は多めに準備する。  
(特にリーシュプラグや紐、リーシュコード、フィンに問題がないか必ず点検する。)
- ・パドルをはじめとする SUP 器材は、海中や休憩中の紛失、特に浜で波にさらわれないように注意する。
- ・着用する器材はサイズの適したものを使用する。
- ・器材使用後は洗浄および塩抜きをし、十分に乾かす。
- ・必要に応じてタープやブルーシート、真水のタンク、給水用のジャグを用意する。
- ・レスキュー用の予備ボードやチューブ、ホイッスルを陸上に用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者から常に目を離さないようにする。
- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、チームやバディを組み、出艇数を調整する。  
目安はスタッフ1：参加者3～4。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・陸上には1人スタッフをおき、通信機器および参加者の情報を所持し、非常時にはキャンプ場および本部などに連絡を担当する。双眼鏡などを用いて監視にあたり、緊急時には連絡ののち、助けにむかうことも想定しておく。
- ・イベントなどで参加者数が多く、SUPを順番におこなうプログラムの場合、陸上と水際にそれぞれスタッフをおく。陸上スタッフは浜で待機している参加者を含め、全体の状況を把握する。水際スタッフは参加者のSUP乗降サポートや、緊急時における救助、水上スタッフと陸上スタッフの連絡中継などを担う。
- ・海上・陸上スタッフともにホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、にっこりサンパークにあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

【最寄りのAED設置箇所】 居酒屋ふーちゃん横 現場事務所

【管轄警察署】 河北警察署（0225-62-3411）

【最寄りの医療機関】【急患の搬入先】 石巻赤十字病院（0225-21-7220）

#### ⑧法令・ルール

- ・参加同意書（誓約書）および健康チェック書を作成し、参加者および保護者に記入させる。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

## ★ チェックポイント | SUP プログラム

### 【プログラム開始前】

チェック項目	✓
申込書情報で健康状態に問題はないか確認する。	
当日の健康チェック表で健康状態を確認する。	
会話をする中で、参加者の人となり(自己中心的/慌て者/怖がり など)を見て、注意する人や部分を探る。	
自分の身の回りのものをきっちり片付けさせる。	
シャワールームにすぐに持っていけるようタオルなど分けさせる。	
器材のフィッティングは丁寧に。特にライフジャケットの締め付けは入念におこなう。	
活動エリアや危険箇所の確認をおこなう。	

### 【プログラム中】

- ・参加者人数の確認を頻繁におこなう
- ・グループ体系をしっかりと維持する
- ・水を怖がっていないか
- ・リーシュコードに異常はないか
- ・パドルの長さや持ち方は正しいか
- ・疲労していないか
- ・ヒートロスをおこしてふるえていないか、チアノーゼをおこしていないか
- ・顔に赤みをおびていないか（熱中症の疑いはないか）

### 【プログラム終了後】

チェック項目	✓
ボード・パドル・ライフジャケットなどの返却器材は全部そろっているか	
気分がすぐれなくないか	
器材をしっかり洗わせ、干させる	
シャワールームでふざけていないか、てきぱきと浴びているか	
使ったあとがきれいか	
忘れ物はないか	
ヒヤリハットシートの記入	

### 3. キャンプ

#### <1>神割崎キャンプ場

##### (1) 中止判断の基準目安

- ①暴風・大雨警報、津波注意報のいずれかが発令中の場合
- ②大雨が降ってきた場合、もしくは雷や雷雲が確認された場合
- ③その他現場責任者が相当と認める場合

##### (2) 活動

###### ① 気象条件

- ・天候の急変や有事に備え、屋内の待避場所ならびに活動の代替案を用意しておく。
- ・直射日光を遮る構造物がないため、タープなどを用意する。
- ・キャンプ中の各プログラム（カヤック・SUP）は、それぞれの気象条件に従う。

###### ② 地理的条件

- ・活動範囲や危険範囲を明確に知らせる。
- ・シャワーとトイレは神割崎キャンプ場の施設が使える。
- ・海岸や展望ポイントなどへの道や草地のサイトなどは、事前・活動直前に危険箇所がないか把握する。
- ・キャンプ中の各プログラム（カヤック・SUP）は、それぞれの地理的条件に従う。

###### ③ 危険生物

###### 【アカクラゲ】

近づかない。海水で触手を洗い流した後消毒し、患部を冷やす。真水禁物！

###### 【カギノテクラゲ】

藻類にうかつに触れない。藻場の中に入らない。後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

###### 【ハチ・アブ・ブヨ】

肌を露出した服装は避ける。十分な下見をおこない、ハチの巣などがいないか事前に確認する。むやみに草むらへ近寄らない。

###### ④ 参加者の条件

- ・小学生3年生以上。ただし、キャンプの趣旨によっては、幼稚園児以上も参加可能。
- ・スタッフの能力に応じ、参加者層や人数を調整する。目安はスタッフ1：参加者4~6。
- ・事前に参加同意書と健康カードを配布、記入して当日持参してもらう。当日の受付時には健康状態を把握し、必要があれば参加させない。
- ・てんかん、喘息、痙攣などの発作、生活習慣病、肺疾患、妊娠、飲酒者などは原則参加できない。
- ・服装は肌を露出しない、長袖長ズボンを必ず着用する。季節や天候に合わせて日焼け、日よけ対策や防寒対策もおこなう。
- ・靴などを必ず着用する。

#### ⑤道具・器材などの条件

- ・不具合や整備不足を細部まで確認・点検し、予備を含め備品は多めに準備する。
- ・救急セットは、本部に常設するセット、救護スタッフが常備するセットなどを複数用意する。

#### ⑥スタッフの条件

- ・参加者数やその年齢・能力に応じ、グループを組んで活動する。目安はスタッフ1：参加者4～6。
- ・スタッフは必ずトレーニングを受けた者とする。
- ・現場責任者や各プログラムの責任者や各役割分担を明確にし、コミュニケーションを十分にとる。
- ・参加者の情報を健康カードなどから事前に把握しておく。また、活動中は目を離さないようにし、参加者の特徴や体力、能力、服装などを把握するようにする。
- ・参加者が不安や悩み、緊張などが続いている場合、事故につながるなどの危険があるので、活動中も、参加者の意識や感情、健康状態の把握に努める。
- ・ルールやマナー、安全意識や自己責任の意識づけをする。
- ・天候状況を随時確認し、活動が安全に実施できるよう判断をする。
- ・スタッフはホイッスルを携帯し、合図を決め交信が取れるようにする。

#### ⑦緊急時対策

- ・大地震発生時の避難場所は、とりあえずキャンプ場の高いところ(灯台など)にあがる。
- ・大地震発生時はスタッフ体制に関らず、各自の判断で身近な参加者を連れ、安全な場所へ避難する。

##### 【最寄りのAED設置箇所】

神割崎キャンプ場レストハウス(0226-46-9221) ※ 夜間使用不可(開館日時を事前確認)

【管轄警察署】 南三陸警察署(0226-46-3131)

【最寄りの医療機関】 南三陸病院(0226-46-3646)

【急患の搬入先】 石巻赤十字病院(0225-21-7220)

#### ⑧法令・ルール

- ・事前に参加同意書(誓約書)および健康カードを配布し、参加者および保護者に記入させる。
- ・海のプログラムがある場合、事前に漁協戸倉出張所へ実施の告知をしておく。
- ・漁業権に抵触しないよう注意する。
- ・生きものに不要なダメージを与えず、決して持ち帰らない。
- ・釣り人との接近に注意する。

#### ⑨その他

##### 【テント利用】

- ・テントの中では火気やガスランタンなどは重大な事故につながる危険があるため、使用しない。
- ・設営地は避難経路や風の通り道を想定して選定する。

##### 【キャンプファイヤー・焚き火・花火】

- ・水を用意し、子どもだけではおこなわないようにする。
- ・火を扱うスタッフを決め、やけどしないよう手袋を付け、点火中は火の粉などにも十分注意する。
- ・風の強い時は、立ち木や芝生などへの延焼の恐れがあるので実施しない。
- ・夜間は、障害物や凹凸などの安全対策をするとともに、懐中電灯などを用意する。
- ・火気の終了後は確実に消火したかどうかを確認する。

#### 【ナイトハイク】

- ・事前と直前の下見を確実におこない、危険箇所などが無いコースを選定する。
- ・細い道や海へつながる道を選定する場合は、子どもだけで行かせず、懐中電灯などを用意する。
- ・霧や小雨時の実施は、子どもだけで行かせず、懐中電灯を用意し、常に目を離さないようにする。

#### 【野外料理】

- ・かまどなどを利用する場合、周りに引火しやすいものがないことを確認し、水も近くに用意する。
- ・かまど番のスタッフを決め、火の周りでふざけないよう注意する。
- ・食中毒をおこさないため、調理前の手洗いは徹底し、十分に加熱するようにする。
- ・腐りやすい食材の保管は、クーラーボックスなどで低温保管する。
- ・水は「飲料可」を確認できないものは利用しない。

#### 【刃物の利用】

- ・ナタなどを利用する時は、周りに人がいないよう注意し、安定した場所で作業する。
- ・マキや木材などを持つ手は必ず軍手などを付け、ナタなどは素手で扱い、集中して作業する。
- ・包丁や刃物の利用は、正しい使い方を実演して説明するなど、年齢に応じた指導をする。
- ・使用しない時は確実に収納し、誤った使用による事故が起きないようにする。

#### 【その他】

- ・バディもしくはチームを組んでおこなう。
- ・その他の活動場所や活動内容においても、可能な限り危険を予測して安全管理をおこなう。ただし、安全面を気にするあまり、活動が萎縮しないよう、安全管理と魅力ある活動のバランスに注意する。

## 第3章 ー事故が発生した場合の対応

### 1. 対応フロー

どんなに注意をしても、事故は起こる。事故が発生した場合、事故に動揺し慌てると、的確な判断ができずに被害を拡大する恐れがあるので、スタッフは「冷静」に行動を起こさなければならない。また、傷病者のみに目を奪われていると、他の参加者や自分自身の安全管理が疎かになることがある。二次災害につながる危険もあるため、救助前には全体の安全管理を徹底することが重要である。

#### (1) 状況の把握

- ・何が起こったのか、状態はどうなっているのか、全体の状況をすばやく正確に把握する。
- ・リーダーはスタッフの役割分担を明確にし、状況に合わせて何をすべきかを指示する。他の参加者に必要以上の心配や動揺を与えないよう配慮し、指示を与え、プログラムを続行するか中断するかを判断する。

#### (2) 救助

- ・リーダーもしくは現地責任者の判断により、救助や搬送が必要な場合、救助要請をおこなう。もしくは病院へ連絡し、必要な指示を受ける。
- ・状況の詳細を本部に連絡する。本部から、傷病者の家族を含めた関係機関へ迅速に連絡する。

#### (3) 応急処置

- ・傷病者の様子を見ながら、安全な場所へ移し、スタッフにより応急処置をおこなう。
- ・意識がない、心肺停止、大出血などの生命に関わる状態の場合は、直ちに心肺蘇生や止血などの処置をし、救急車や医療機関に引き継ぐまでおこなう。

#### (4) 搬送

- ・病院に移動、搬送する際、傷病者にはスタッフが付き添う。
- ・病院同行のスタッフは、医師による診断、救急治療の経過と結果を本部に報告する。傷病者の状況に応じて、病院へ責任者が向かう。同行スタッフは、現金と携帯電話を持参する。

#### (5) 記録

- ・記録係は、事故記録用紙を軸に、事故がどのような状況、原因で発生したかを事実に基づき調査し、克明に記入する。そして、相手がいる場合は、氏名・住所・連絡先を記録し、原因の物件がある場合は保存する。その後の対応について、連絡、処置など一連の活動とその時刻を記録する。
- ・本部へ連絡する。5W1H（いつどこで誰が誰と何がどのように起こったか）をはっきり落ち着いて伝え、緊急連絡であることをはっきりという。現地での連絡先、滞在地などを明確に伝え、常時通信ができる手段を確保する。
- ・本部より現地の関係官公署、保険会社などに連絡する。

## (6) 事故後

- ・ 事故後のお見舞いは誠意を持ってあたる。
- ・ リーダーは以後の事業について、本部と相談して決定する。現地協力者へのお礼と感謝を忘れない。
- ・ 事故後の経過ややり取りについても記録を続ける。

## 2. 緊急連絡網

リーダーは、活動前に予め緊急時連絡先一覧表から、当日必要な「緊急時連絡体制」フォームを完成させ（休日当番医や本部担当者を確認する）、携行し緊急時に備える。

（所定様式：緊急時連絡先/緊急時連絡体制）

## 3. 救命処置・救急法

### (1) けが・急病の対応

- ・ 対応フロー（所定様式参照）に沿っておこなう。本部には随時報告し、リーダーが中心となり、役割分担を明確にする。
- ・ 本部には事故直後、保護者には引き渡し時（必要であれば直後）に必ず報告する。

#### ①意識あり

【軽傷】迅速に応急手当をし、様子を見て活動復帰する。活動復帰が難しい場合は、症状が悪化しない安全な場所へ移動し、安静にする。必要があれば医療機関へ行く。

【要救助】救助要請と同時に、安全な場所へ移動し、迅速な応急手当を行い、傷病者を励ます。

#### ②意識なし：救助要請をおこなうと同時に呼吸の確認をおこなう。

【呼吸あり】普段通りの呼吸がある場合は気道を確保し、回復体位もしくは本人にとって楽な姿勢を保ち、救助を待つ。

【呼吸なし】直ちに心肺蘇生（胸骨圧迫）を繰り返す。AEDが近くがあれば使用する。救助到着まで、傷病者が目を開けたり、普段通りの呼吸が回復するまで、心肺蘇生を続ける。

### (2) 危険生物・アレルギーへの対応

- ・ 原則として、軟膏や薬品はスタッフの手で塗布しない、服用させない。

#### ①むし

##### 【ハチ・ブヨ】

- ・ ハチは動くものに攻撃する習性がある。見かけた場合は、慌てず騒がず刺激しない。
- ・ 万が一刺された場合、現場からすぐに遠ざかる。
- ・ 刺された箇所の周囲を爪やポイズンリムーバーなどで毒液を絞り出す。針が残っている場合は取り除いてからおこなう。
- ・ 傷口を水で洗い流す。（抗ヒスタミン剤軟膏は有効）
- ・ 患部を濡れたタオルなどで冷やし、安静にする。
- ・ 息苦しさや口の渇き、冷や汗や目眩、血圧低下、痺れ、嘔吐、じんましんなどの症状が出て、ア

ナフィラキシーショックが疑われる場合、直ちに救助要請し医療機関を受診する。(エピペンも有効)

#### 【毛虫】

・毒毛が付いた場合、手で触らず、水で洗い流す。皮膚に症状が出た場合は、皮膚科へ。

#### 【アブ】

・傷口を水で洗い流し、止血、冷やす。(抗ヒスタミン剤軟膏は有効)

#### 【ヒル】

- ・吸血されないよう、肌の露出を控えた服装が好ましい。
- ・吸血されてヒルが取れない場合、アルコール類などを付けると簡単に落ちる。
- ・傷口をよく洗い、ポイズンリムーバーなどで、傷口からヒルジン成分を吸引する。
- ・血はすぐに止まらないが、活動続行の場合、血が他人や他のものに付着しないよう、絆創膏やガーゼなどで血を受け止める。(止血後の抗ヒスタミン剤軟膏は有効)

#### 【ダニ】

- ・吸着されないよう、肌の露出を控えた服装が好ましい。
- ・傷口を消毒する。
- ・ダニが吸着している場合、ピンセットで頭の部分(皮膚に近い部分)を掴み、真上に引き抜く。引き抜く際、ねじると頭部が残る場合があるので気をつける。それでも取れない場合は、皮膚科で切開除去する必要がある。(無理して取らない)

#### 【その他】

・ムカデ

### ② どうぶつ

#### 【ヘビ(マムシ/ヤマカガシ)】

- ・噛まれたヘビが毒ヘビかどうかを確認し、救助を要請する。(噛まれた跡のキズが前方左右に2つの牙の跡ができ、咬傷部に激痛や灼熱感、膨張、変色などの反応があれば毒ヘビ。ヤマカガシは腫れや痛みがほとんどない。)
- ・体を動かすと毒の回りが早くなるため、安静な状態を保ち、咬傷部を流水で洗い流してから、早急に医療機関へ直行する。

#### 【ツキノワグマ】

- ・出くわさないため、山へ入る際は、大声で話しをしたり、ラジオを掛ける。
- ・傷口を洗い、止血などの応急処置をして医療機関へ直行する。

### ③ 植物(ウルシ・ツタウルシの写真)

- ・肌の露出を少なくし、かぶれを防ぐ。それでも植物にかぶれた場合は、触れた部分を流水で洗い流し、冷やして炎症を抑える。(副腎皮質ホルモン軟膏が有効)
- ・症状が良くならない場合は、早めに皮膚科へ。

### ④ 海の生き物

・刺されないため、藻場に突っ込まない。肌の露出を控えた服装が好ましい。

【カギノテクラゲ】後から全身症状が出る神経毒のため、刺されたと感じたらすぐに陸に上がり、安静にして経過を観察する。

【アカクラゲ】海水で触手を洗い流した後、消毒し患部を冷やす。(真水厳禁)

【ハオコゼ】40～50℃のお湯に刺された部位を60～90分程度浸す。(痛みが和らぐまで)

【カキなど】殻に気を付ける。患部を真水で洗い流し、消毒する。

【ウニ】棘に気を付ける。刺さった場合、棘を抜き取り、洗い流し消毒する。

### ⑤食物

#### 【食物アレルギー】

- ・十分に注意していても、万が一摂取してしまった場合、速やかに保護者へ連絡するとともに、医療機関へ直行する。
- ・エピペンがある場合は、症状を観察しながらタイミングを見て自己注射させる。

#### 【食中毒・嘔吐による食中毒2次感染】

- ・マスクやゴム手袋などを装着し、アルコール消毒する。

## (3) 応急手当

### ①けが

#### 【止血】

- ・一般に体内の血液のうち急激に20%を失うと出血性ショック状態となり、急激に30%近くを失うと命に危険がある。
- ・感染防止のため、血液に直接接触することがないようにゴム手袋やビニール袋などを使用する。
- ・出血が少ない軽傷の場合、流水で傷口を十分に洗い流し、きれいなガーゼまたは絆創膏を貼る。
- ・大出血の場合、体位を水平にして休ませ、患部を心臓より高く挙上する。出血部位にきれいなガーゼやタオルなどを当て、その上から手で15分以上強く直接圧迫する。片手での止血が難しいときは、両手を使い、体重をかけて圧迫する。
- ・血が滲み出てくる場合、さらにその上にガーゼやタオルなどを重ねて圧迫する。その際、最初に当てたガーゼやタオルなどは外さない。
- ・神経や筋肉を損傷する恐れがあるため、手足を細い紐などで縛る止血はおこなわない。
- ・切断箇所がある場合、切断部位は冷やさず、温めない。傷口が乾燥しないよう、切断部位をガーゼなどで包んでから、緩衝材に包み、ジップロックなどに入れて体とともに搬送する。
- ・大量出血あるいは出血が止まらない場合、ショック症状がみられる場合などは直ちに救助要請する。

#### 【捻挫】

- ・骨折していないか確認するため、歩けるかどうか確認する(3歩以上歩いてもらう)。触診し、動きの確認と感覚・循環を確認する。
- ・腫れを抑えるため、包帯で圧迫しながら巻き、2時間以上患部を冷やす。
- ・活動を継続する場合、テーピングをおこない、患部を固定する。

#### 【打撲】

- ・楽な姿勢をとり、休ませる。
- ・患部を冷水や氷水などで冷やし、圧迫包帯をして腫れを軽減させる。
- ・患部を挙上させる。

### ②水の事故

### 【溺水】

- ・海や川でのプログラムをおこなう場合は必ずライフジャケットを着用させる。また、参加者（特に子供）が単独で水際へ近づくことが絶対にないようにする。
- ・海や川での救助は、救助者が巻き込まれて溺れる場合が多いため、単独で救助には行かない。
- ・意識があり溺れている人を救助する場合、レスキュー用フロートやロープなどを投げたり、長い棒を差し出して、つかまらせ、できるだけ早く水から引き揚げる。できる限り陸上や船、カヤックなどの安全な場所からの救助を考える。
- ・意識がない人を救助した場合、すぐに水面上で仰向けにして気道確保をおこない、できるだけ早く水から引き揚げ、普段通りの呼吸をしていないときは直ちに心肺蘇生をおこなうとともに、救助要請をする。
- ・溺れた人が吐いた場合、直ちに顔を横に向ける。必要があれば、指にハンカチやガーゼなどを巻き付け、異物をかき出して口の中をきれいにする。
- ・無理に水を吐かせる必要はなく、傷病者の腹部を圧迫して吐かせるようなことはしない。
- ・溺れたが心肺蘇生などが必要でない場合であっても、海水は雑菌を多く含んでいるため、寝かせない。経過観察を怠らず、医療機関へ搬送する。

### 【ブラックアウト】

- ・症状：長い間息をこらえて体を動かしていると、体が酸欠状態となり失神する可能性がある。水中で意識を失うと、肺に水が入り溺れる。
- ・溺れた場合、できるだけ早く水から引き揚げ、心肺蘇生をおこなう。意識が戻っても医療機関で診断を受ける。

### 【炭酸ガス中毒】

- ・症状：スノーケルを口にくわえていると換気効率が低下する。浅く速い呼吸では新鮮な空気が微量しか肺に取り込まれず、炭酸ガスがたまる。呼吸回数が増え、頭痛や疲労感、脱力感があらわれ、麻痺やけいれんを起こすこともある。
- ・陸へあがり、ゆっくりと大きい深呼吸をおこなう。症状が改善されない場合、酸素吸入やショックの処置が必要となる。

## ③暑さ・寒さ

### 【熱射病（熱中症）】

- ・症状：体温調節機能が崩れて、40℃以上に体温が上昇し、脳機能に異常がでる状態。応答が鈍い、言動がおかしいなどの状態から進行し、昏睡状態となる。少しでも意識障害がみられるときは重症と考えて処置する。
- ・帽子を着用させ、こまめな水分や塩分の補給をおこない、涼しい場所で休憩をするようにする。
- ・症状：高温多湿な環境や激しい運動、慣れない運動、体調不良など様々な要因から、体のバランスが崩れ、汗や皮膚温度で体温調整ができずに体温が上昇し、体に熱が溜まりって起こる。目眩や顔のほてり、大量の発汗、頭痛、吐き気、だるさ、筋肉痛、筋肉のけいれん、体温が高くなる。集中力や判断力が低下し、呼びかけに反応がなく、自分で水分補給ができなくなる。
- ・室内や車内、日陰などの涼しく、風通しの良い場所へ移動して、安静にする。
- ・衣服を脱がせ、全身に水を軽く噴きかけて強く扇いだり、全身にぬれタオルを当てて扇ぐことで、

体の熱を放出させる。脇下や首、股間など大きい血管が通う部位を氷枕や保冷剤など（要当て布）で冷やす。

- ・スポーツドリンクなど、水分と塩分を補給（無理には飲ませない）すが、重度の場合は命に関わるので、飲み喰いはさせず、体を冷やししながら、急ぎ医療機関へ搬送する。

#### 【熱失神】

- ・症状：体温調節のため、皮膚血管が拡張し、下肢へ血液を貯留するため血圧が低下、脳血流が減少する。炎天下でずっと立っていたり、立ち上がったとき、運動後などに起こる。目眩や失神。脈は速く弱くなり、顔は蒼白になる。呼吸回数が増加し、唇が痺れる。
- ・涼しく、風通しの良い場所へ移動させ、寝かせる。

#### 【熱疲労】

- ・症状：大量の発汗による脱水症状と皮膚血管の拡張による循環不全の状態。脱力感や倦怠感、目眩、頭痛、吐き気などがみられる。
- ・涼しい場所へ運び衣類をゆるめて寝かせ、水分と塩分を補給する。
- ・回復しない場合は、医療機関へ搬送する。

#### 【熱けいれん】

- ・症状：大量の発汗にもかかわらず、水分のみ補給して、血液中の塩分濃度が低下したときに起こる。足や腕、腹部の筋肉が痛みをとまなう菌けいれんを起こす。
- ・生理食塩水（0.9%食塩水）など濃い目の食塩水を補給する。

#### 【日焼け】

- ・症状：紫外線が皮膚に照射されることで皮膚に様々な化学物質が作られ、この化学物質によって血管が拡張し、肌が赤くなる。やけどの一種で、ヒリヒリした痛みやほてりなどがあり、ひどくなると水泡ができたり、むくみが出る。
- ・冷たい水で濡らしたタオルや氷でよく冷やす。全身の場合は水風呂につかったり、水シャワーを浴びるといいが、体の冷やしすぎに注意する。
- ・水泡ができた場合、感染を防ぐため、膜が破けないよう冷やした後にガーゼなどを当て、医療機関へかかる。

#### 【低体温症】

- ・症状：体から失われる熱量が、運動による代謝で作られる熱量と外部からの熱（日光や暖房などの熱）の総和を上回った結果起こり、体の深部体温が35℃以下になる。初期症状は体が激しく震えて歯がカチカチ鳴るが、さらに体温が下がると、震えは止まり、動きがぎこちなくなり、思考能力の低下、眠気や吐き気、さらに冷えると意識不明や呼吸停止に繋がる。
- ・命に関わることなので、発症しないようにしっかりと予防する。
- ・水に濡れたことで震えがきた場合、乾いたタオルで体をよく拭き、乾いた衣類に着替えさせ、毛布で体を温める。無理がなければ、ぬるい飲みもの（カフェインを含むもの、刺激性のあるものは除く）を飲ませる。
- ・意識不明の場合、救助を要請し、体温がそれ以上失われないよう濡れた衣類を脱がせ、乾いた温かい毛布などでくるみ、暖かい場所で安静にする。

#### 【脱水症状】

- ・人体の 60～70%は水分だが、体内の水分が足りていない状況を脱水症状となり、頭痛や吐き気、嘔吐、イライラなどがあり、身体機能も劣ってくる。
- ・人によって必要な水分量は異なるので注意が必要。
- ・基本的に野外活動中は、脱水気味であり、慣れていない人は進行が激しいことがある。回復にも時間がかかり、凍傷や低体温症、ショックなどの要因にもなりうるため、予防が重要となる。
- ・喉が乾く状態をつくらないように、こまめに水分摂取をする。飲みやすいものを少しずつ摂取し、飲めなければ食べ物を摂取する。(水分だけでなく、電解質も摂取する。トマト・柑橘類・バナナ・干し果実など)

#### ④その他

##### 【鼻血】

- ・上体を起こして椅子や地面に座る姿勢をとり、顔をやや下に向けて鼻血を前方に流すようにする。その際、ティッシュやガーゼ、ビニール袋などで血を受け止める。(横になったり、上は向かない)
- ・止血は、鼻の付け根のあたりを親指と人差し指で強くつまみ、15分程度圧迫する。冷たいタオルや氷のうなどで鼻を冷やすと血管が収縮され効果がある。(鼻にティッシュは詰めない)
- ・衣類を緩め、楽な姿勢で安静にする。
- ・鼻血が30分以上続く場合は、医療機関へかかることも検討する。

##### 【ショック状態】

- ・症状：顔色は青白く、目はうつろで表情がぼんやりし、冷や汗をかく。唇はチアノーゼとなり、呼吸は浅く速い状態。体が小刻みに震え、皮膚は青白くじっとりと冷たくなる。
- ・傷病者を水平に寝かせ、両足を45℃高く上げ、血液が体内へ循環するようにする。
- ・体を締め付けているベルトなどをゆるめる。
- ・体温が下がらないよう、毛布や衣服をかけて保温し、声がけして元気づける。

## 4. 事故の記録

事故を記録することには、大きく2つの意味がある。1つは、法的責任を問われた場合や、保険の手続きをする際に必要となる。2つ目はこの事故を教訓にし、今後の対策に活かすことができる。

(所定様式：事故記録用紙)

- ・記録係は責任を持って、事故記録用紙を軸に、事故の状況から、応急手当や事故後の経過を誰が見ても分かるよう、克明に記録する。
- ・事故後の傷病の経過や通院の記録など、事故が収束するまで記録を続ける。
- ・相手がいる場合は、相手の連絡先なども併せて記録する。

## 5. 保険

- ・本部より、できるだけ早い時期に保険会社へ第一報を入れる。保険の手続きに必要な事柄で、現場で対応する必要があることは、本部と現場で連携しておこなう。
- ・事故後、保険会社から必要な手続きなどについて指示を受け、対応する。

## 6. 関係者への対応

誰に対しても、誠心誠意を持って対応することを心がける。事故記録をもとに、責任者が事故状況などをきちんと把握するようにする。

### (1) 組織の関係者への連絡

- ・申込団体やビジターセンターなど、関係組織に連絡を取り、報告する。

### (2) 警察、行政機関などへの連絡

- ・必要があれば、被害の拡大を防ぐためにも、支援が受けられる機関（警察・消防・海保・漁協・行政など）と連携をとり、状況を正確に伝えたとともにその指示に従う。

### (3) 保護者、家族への連絡

- ・傷病者の保護者、家族に連絡をする。必要に応じて、事故にあわなかった参加者についても同様に連絡する。

### (4) マスコミ

- ・担当者を決めて、窓口を1本化する。統一した情報を提供し、個人情報の保護などにも配慮しながら正確に対応する。

## 7. 災害時対応

### (1) 地震・津波

- ・強い揺れを感じた場合、活動を直ちに中止し、各フィールドの避難方法などに基づいて避難する。
- ・リーダーは参加者の人数や安全を随時確認する。
- ・津波注意報が発令の場合は中止。
- ・家族へ連絡する。

### (2) 大雨・暴風・台風・竜巻など

- ・事前にある程度の進路や速度が分かるため、実施前に内容変更や延期、中止などの適切な判断をする。
- ・プログラム中に警報が発令した場合、フィールドでの活動は中止し、安全な場所へ避難する。注意報は、状況に応じて判断する。

### (3) 雷

- ・フィールド上空で稲光が見えたり、雷鳴が聞こえた場合、活動を中止する。最寄りの屋根のある施設に参加者を避難させる。
- ・避難できる施設が近くにない場合、高さ 5～30m の物体（樹木・建物・電柱など）の保護範囲へ。車は OK。物体から 4m 以上離れ、姿勢を低くし、両足をそろえてしゃがみ、指で両耳穴をふさぐ。
- ・地面との接地面は小さくするが、態勢は低くする